

オオカワヂシャ

科名：ゴマノハグサ科
学名：Veronica anagallis-aquatica
原産地域：ヨーロッパ～アジア北部

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来植物の駆逐・遺伝的攪乱

- ・繁殖力が旺盛であり、大きな群落を形成、在来植物の減少を招く
- ・在来種のカワヂシャと雑種を形成

【生育場所】

- ・湿地、河川、水田、水路、湖沼等
- ・日当りの良い水辺

- ・4～9月に、葉脇から花序を出す
- ・直径7～8mm程の淡紫色の花を多数つける



- ・高さ0.3～1m程度になる越年生または多年生草本
- ・抽水～湿生植物

【どこまで広がっているか】

長野県では

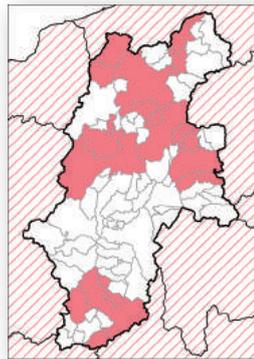
- ・千曲川流域、安曇野、姫川流域、天竜川水系

全国では

- ・最初の記録は1867年の神奈川県
- ・侵入時期は不明とされる
- ・現在は、岩手、秋田、山形、石川を除く本州、徳島、愛媛、大分、佐賀で野生化

世界の分布

- ・南北アメリカ、アフリカ、オーストラリア（温帯～熱帯域）



2019年現在
■ 定着 ■ 一部地域に定着

- ・河川では水際の湿地に生育する
- ・水深が深く、流れの早い湧水河川では流れになびきながら水中に生育する

- ・茎は太く径およそ1cm
- ・葉は無柄で対生し、長楕円形～披針形
- ・葉のへりには細かい鋸歯があるが、細かいため全縁に見える

果実は球形で、多数の種子を含む

【間違わないで！】

主な類似植物（在来種）

カワヂシャ（ゴマノハグサ科）



- ・葉面が波打ち、縁にとがった鋸歯があり、基部は茎を抱く
- ・開花は5～6月
- ・花は白色で直径は4mm程度
- ・環境省レッドデータブック及び長野県版レッドリストの準絶滅危惧種

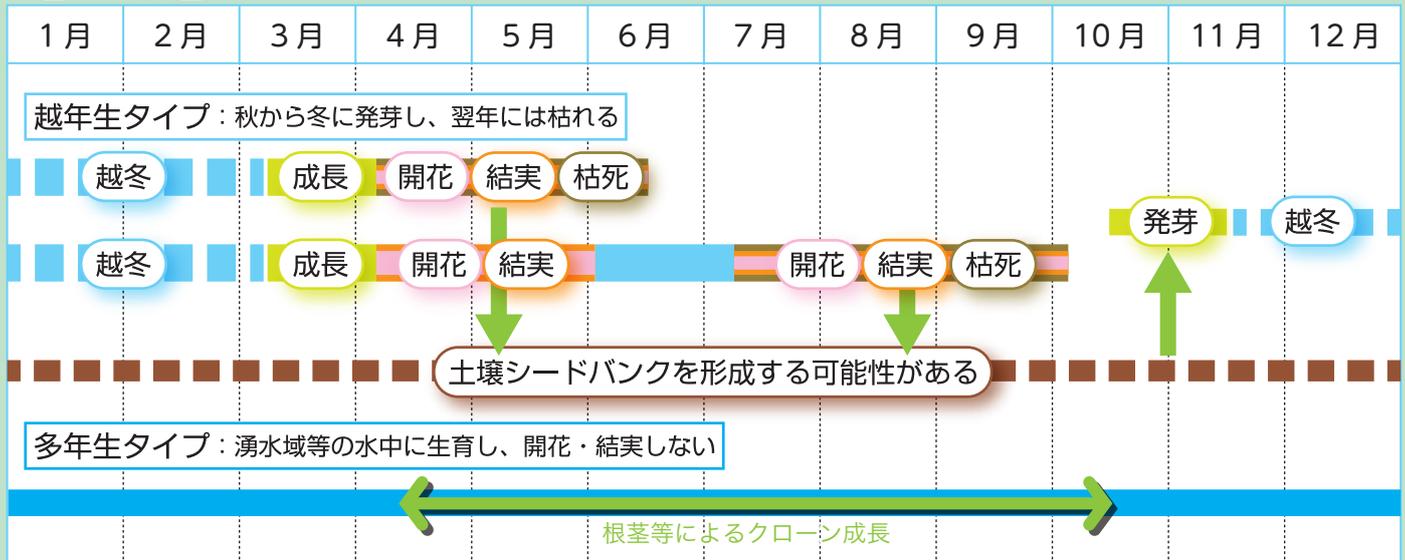
【特性】

- ・以下の3つのタイプの生活史が知られている

- ①秋から冬にかけて種子が発芽し、翌春に開花・結実して枯死する越年生のもの
- ②湧水環境で、春に開花・結実した後、一旦枯れて葉脇から無性芽が成長し、夏から秋にかけて開花・結実するもの
- ③流水中に生育し、ほとんど開花せず多年生のもの

- ・種子の発芽率は8℃以下から28℃の間で80%以上を示すとの研究例がある（在来種のカワヂシャは14℃～20℃の間で80%以上）
- ・種子は休眠性がある可能性があり、土壌に埋まっても発芽能力を維持し、土壌シードバンクを形成する可能性があると考えられている
- ・種子による繁殖のほか、根茎や葉の断片でも栄養繁殖する

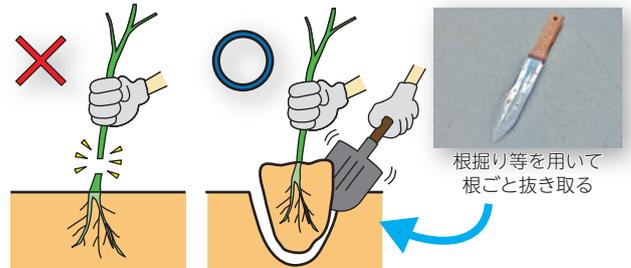
【生活史】



【防除方法】

抜き取り 根絶を目指す

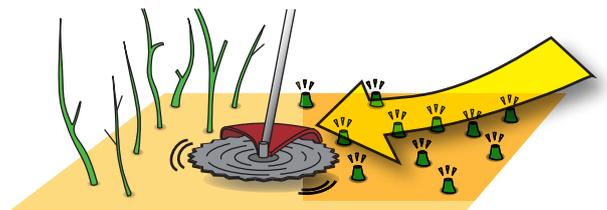
- スコップや根掘り等を用いて根ごと抜き取る（できるだけ根や茎を残さないように！）
- 年1回以上（種子を散布する結実期までの4月、7月頃）、見られなくなるまで継続して実施する
 - ※土壌中には大量の種子（埋土種子）が存在する可能性があり、また、周囲から種子や地下茎などが供給される可能性もあるため、駆除作業は毎年継続して実施していくことが必要



刈り払い 抑える・増やさない

機械による刈り払いは抜き取りに比べると作業は軽微であり、種子をつける前に実施すれば、種子による繁殖を抑える効果がある（ただし、残った地下茎や匍匐茎から再生する可能性がある）

- 対象地が広い範囲の場合は刈り払いが適している
- 年に1回以上（種子を散布する結実期までの4月、7月）、見られなくなるまで継続して実施する
 - ※土壌中には大量の種子（埋土種子）が存在する可能性があり、また、周囲から種子や地下茎などが供給される可能性もあるため、駆除作業は毎年継続して実施していくことが必要



きっちりと駆除し処分する ～作業中・作業後～

- 駆除作業にあたっては、抜き取り・刈り払い実施者のほかに、流下する植物体（根茎等）をすくい取るタモ網等をもった人員の配置、また作業場所の下流側にネットを張る等の措置が望まれる
- 種子（果実）、根や茎等が飛び散らないよう密閉できるゴミ袋等に入れて枯らす
- それぞれの自治体のごみ処理方法に従って焼却処分する
 - ※特定外来生物に指定されたものは、原則として「飼育、栽培、保管及び運搬すること」、「輸入すること」、「野外へ放つ、植えるまたはまくこと」、「譲渡、引き渡し、販売すること」が禁止されている
 - ※なお、以下のすべてに該当する場合は、運搬・保管が可能
 - ・防除した特定外来生物である植物を処分することを目的として、ごみの焼却施設等に運搬するもの
 - ・落下や種子の飛散等の逸出防止措置が運搬中にとられているもの
 - ・特定外来生物の防除である旨、実施する主体、実施する日及び場所等を事前に告知する等、公表された活動に伴って運搬するものであること
 - ・保管中の逸出防止措置がとられており、第三者が容易に持ち出すことができないよう実施する主体において管理され、かつ必要最低限の期間に限り行う場合
- 駆除道具、長靴等に付着したオオカワヂシャを作業域外に持ち出さないよう注意が必要

